

平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	ゼミナールⅡB(SeminarⅡB)		授業コード	E002506
担当教員名	鍋田 耕作		科目ナンバリングコード	E21202
配当学年	2	開講期	後期	
必修・選択区分	必修	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	卒業要件として必修の科目です。			
受講心得	ゼミは発表・討論を通じて学ぶ場であり、自分の考えていることを相手に正確に伝えることを意識的に行っていきます。そのためにも問題を明確化するとともに、積極的な参加を期待します。			
教科書				
参考文献及び指定図書	その都度紹介します。			
関連科目	社会福祉原論, 高齢者福祉論, 障害者福祉論, 児童福祉論, 地域福祉論, 社会保障論など			

授業の目的	近年の我が国では、少子高齢化社会を本格的にむかえ、社会福祉の転換期を迎えています。こんにちの福祉においては、利用者の自立支援、利用者による選択や契約等による福祉サービスの利用、権利擁護、第三者評価による福祉サービスの質の向上、地域福祉活動の拡充などが求められています。 私のゼミナールでは、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、地域福祉等を包括した広い視点から社会福祉をとらえ、こんにち起きている問題や事件等を題材に専門的な知識及び技術の習得を目指します。最終的には、これからの社会福祉について理解と考察を深めていきます。
授業の概要	ゼミナールⅡBでは、社会福祉の現状の課題について文献などを通じて理解を深めていきます。そのため文献検索の意義・目的、方法について理解するとともに、実際に各自で文献検索を行い、その内容について発表をしてもらいます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：オリエンテーション 本講義の目的および内容等について説明します。また、履修状況の確認を行います。	
第2週：論文について理解する 論文とは、どのようなものなのか、どのような構成で作られているかなどについて、参考資料をもとにグループで討論を行う。	リアクションペーパー提出
第3週：要約について理解する 社会参画入門の講義内容を振り返りを行うとともに、参考資料を実際に要約を行う。	リアクションペーパー提出
第4週：要約について理解する 第3週で作成した自らの要約について、各グループで振り返り説明を行い、要約の方法について討論を行う。	リアクションペーパー提出
第5週：文献検索の方法を理解する 文献検索の方法(CiNii等)について理解するとともに、実際に自分の興味関心のあるテーマの文献を探してみる。	リアクションペーパー提出
第6週：学術論文について理解する 第5週で検索した論文をもとに、どのような構成で作られているかなどについてまとめる。	リアクションペーパー提出
第7週：学術論文の要約について理解する 第5週で検索した論文を、賛成的立場・批判的立場から自分の意見(主張)を考え、学術論文の要約方法について理解する	リアクションペーパー提出
第8週：学術論文の要約① 第5週で検索した論文をこれまでの講義内容を踏まえ、要約を作成する	リアクションペーパー提出
第9週：発表 学術論文の要約①-1 第8週で作成した要約について、全体発表・質疑応答を行い全体での共有を行う。	リアクションペーパー提出

第10週：発表 学術論文の要約①-2 第8週で作成した要約について、全体発表・質疑応答を行い全体での共有を行う。		リアクションペーパー提出
第11週：文献検索 発表や1回目の文献検索を踏まえ、再度テーマに関する文献を検索する。		リアクションペーパー提出
第12週：学術論文の要約作成② 第11週で検索した論文をこれまでの講義内容を踏まえ、要約を作成する		リアクションペーパー提出
第13週：発表 学術論文の要約②-1 第12週で作成した要約について、全体発表・質疑応答を行い全体での共有を行う。		リアクションペーパー提出
第14週：発表 学術論文の要約②-1 第12週で作成した要約について、全体発表・質疑応答を行い全体での共有を行う。		リアクションペーパー提出
第15週：振り返り ゼミナールⅡA・Bで行ってきた講義内容について振り返りを行う。		リアクションペーパー提出
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	グループワーク・レクリエーション実施に積極的に参加することができる。
【知識・理解】	社会福祉の対象となる利用者について理解している。
【技能・表現・コミュニケーション】	グループワークにおいて、自分の考え・意見をメンバーに伝えることができる。
【思考・判断・創造】	

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		35点		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		30点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		35点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。				

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 （提出物）	講義でのレポートおよび講義への参加状況をもとに総合的に判断します。 [Sレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他 （無形成果）	